

第6回ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針区民検討会 会議録

平成22年7月30日(金)

13時30分～15時40分

会場：大田区役所 蒲田地域庁舎 5階 大会議室

- 資料1 将来のまちの姿
資料2 まちづくりの考え方
資料3 ユニバーサルデザイン 区民協働のまちづくり推進イメージ
資料3-1 アクションプランにおける課題と課題を解決する施策および
から3-3 行政の取り組み事例
参考資料 ユニバーサルデザイン政策大綱
ユニバーサルデザインの考え方をふまえた多様な関係者の参画の仕組みの構築
ユニバーサルデザインの考え方をふまえた評価・情報共有の仕組みの創設

[出席]

(区民検討会委員)14名

斉藤会長/宮澤副会長/松田委員/佐々木委員/道音委員/飯尾委員/狭田委員/堀委員/
柳谷委員/山田委員/古澤委員/鷹西委員/鳴島委員/島村委員

(庁内検討委員)16名

福祉部長/まちづくり管理課長/経営担当課長/広報課長/施設管理課長/国際都市・多文化共生担当課長/観光課長(代理)/高齢計画課長(代理)/障害者施設計画担当課長/子育て施策調整担当課長/副参事(蒲田再開発担当)/大森地域計画担当課長/都市開発課長/都市基盤管理課長/連続立体事業再開発担当課長/教育委員会統括指導主事/

(事務局)

福祉管理課長/福祉管理課担当係長/福祉管理課担当/まちづくり管理課担当係長/コンサルタント(傍聴者)0名

[議題]

1 開会

開会のあいさつ (司会 大田区福祉部福祉管理課長)

2 福祉部長あいさつ

福祉部長

7月16日に人事異動がございまして私が福祉部長となった。今後ともご協力よろしくお願ひしたい。このユニバーサルデザインというものがほかの条例であるとか計画とどういった関係にあり、どのような位置づけにあるのか難しいものと思っておりました。本日はいろいろなご意見をよろしくお願ひ申し上げます。

3 会長あいさつ

会長

前回の検討会でまちづくりの考え方を話し合ったが、今回は実質的にどのようなアクションプランに繋げていくかといった大事な議論になるかと思う。

4 議題

・参考資料 ユニバーサルデザイン政策大綱等 の説明

(1)「将来のまちの姿」「まちづくりの考え方」について・・・資料1、資料2

・将来のまちの姿について

委員

資料1のまとめの第一段階に「ひとりひとりが違いに気づく」と書いてあるが「違い」という言葉は「バリア」を含む意味が感じられる。これではユニバーサルデザインからバリアフリーの概念に戻ってしまうのではないか。

事務局

まず最初にそれぞれ一人一人が「違う」ということに気づき、それから段階的に将来の姿にまちを変えていく、という事を表しており、バリアフリーの概念に戻るというものではない。

福祉管理課長

個性に気づくのが大事ということの説明をしていて、それを一人一人が気付いたときに生まれるそのエネルギーでまちを変えていこうという考え方に基づくものとして表した。

・まちづくりの考え方について

委員

考え方1で「互いの違いに気付く」とあるが、ハード面であればこれでもよいと思うが、ソフトということに関していえば「違い」という言葉は人間を区別するような気持ちが外に出てしまっていて協力的になれないと思う。違う言い方にした方がよいのではないか？

委員

電車に乗っていて自閉症とみられるような落ち着きのない子が、鼻をかんだ後の鼻紙を食べてしまったという光景に出会った。まわりの人はこういった風景にふれることで違

いを実感し、人と区別されるという考えも解消されるのではないかと思う。

委員

私も自分が障がいの子供を持って初めて知的障がいのことを知りました。ほかにも鼻をほじって食べてしまうとか色々なケースの人がいると思う。そういった人に気付くということは大事なことだと思う。また、何故そういった行動をするのかも気付いてもらえたらと思う。たとえば車いすに乗って初めて味わう恐怖とか、気付くことから始まることが大事ではないかと思う。

委員

健常者の中でも精神的に悩みを持っておられ方はいる。現実的に考えればそういった人がどうして悩んでいるかに気付くことが大事ではないかと思います。言葉でいくら優しいことを言ってもかえって苦しめてしまうこともあると思います。

委員

違いに気付いたとしても、自分がその立場に立ってみないとその先には進めないのではないか。他人事ではなく、だれでも気持ちの中に障害を持っている、いつ同じ目に遭うかわからない、ということに気付かないといけないのではないかと思う。

会長

たぶん皆さんはそのことを「気づき」といつているのではないか。ここでは「違い」という言葉より、違いに「気付く」ということの共有を図っていかうとしている。その気づきから始まって、違いを乗り越えていかうという行動に繋がっていくのではないか。

委員

私は視覚障害だとわかってもらうためにも白杖を持って歩いている。黒いめがねをかけているのも紫外線を避けることのほかに同じような意味を持っている。気付くことも大事であるし、気付いていただくということも大事だと思う。

委員

考え方 1 にあるように「みんな同じはととても難しいため、割り切って違うと考えれば難しくはないと思う」とあるように、「将来のまちの姿」の第一段階にある言葉の表現を変えればもう少し分かりやすくなるのではないかと思う。

委員

私は総合学習の授業の時にこういう言い方で教えるようにしている。色々な障がいでも

違いはあるが、同じように生活が出来るようにということで話をしている。

委員

みんなが心に障害を持っているという言い方であればわかる。傲慢とか偏見などという差別につながる心、それも障がいなのだということを皆さんに分かって頂けたらと思う。

会長

言っていることは正しいことだと思う。ここに載せるかどうかということ以前の大前提の話として皆が持つべき気持ちの部分だと思う。次の段階に進んでいく中でこの前提を持って考えているんだということを皆さんで意識してもらいたいと思う。

委員

自分を見直すという意味での気づきなのかなと思った。そうしてみると気づきという言葉が当てはまりやすい、分かりやすいのではないかなと思う。

委員

小さいお子さんにも当てはまるのではないかな。発達の遅い早いなど子供の「違い」について母親はナーバスになるものだが、それも子供の個性なんだと気付くことになると思う。

委員

今この時期にキャッチフレーズを決めなくてはいけないのか。アクションプランの内容の方を詰めていった方がいいと思う。

福祉管理課長

おっしゃったとおりだと思う。今はどういった構成にするであるとかという検討をおこなって、時間も限られているため、内容の一定程度の共有、合意を頂きたいと思っている。

(2)「アクションプラン説明のための推進イメージ」「アクションプランの説明」について・・・資料3、資料3-1～資料3-3

委員

区には色々な事業があり、ユニバーサルデザインは福祉部長の言うように位置づけが難しいと思う。それぞれの事業を担当されている課長が出席されていますが、立案される方も含めて、横のつながり、このように具体的な取り組みについて話し合うことで、よ

り効果的な仕組みというものが出来ていくのではないかと思います。

福祉管理課長

この資料を出すに当たって、区が行っているユニバーサルデザインに関する取り組みについて庁内の事業を調べたところ膨大な量にのぼる。また、これらは区だけで行うということだけではなく、行政と区民の取り組みとするためにどのように表現すべきかを検討している。今回はそのためにご議論いただければありがたい。

委員

非常に分かりやすい書類だと思う。2-5の部分にあるように商店街が衰退しているのは明白である。利用しやすい商店街が少なく、5年前に8,800件あった区商連に加盟している商店街は今となっては7,500件まで減少している。また、お休み処はお年寄りに非常に喜ばれるものだと思う。

委員

自分たちの周りにあるユニバーサルデザインに目を向けてみてはどうかと思う。たとえば、庁内1階にある自販機。お金の投入口は広がっていて、小銭をバラバラに入れても入るようになっており、下の方についていて使いやすい。取り出し口も低すぎず、取り出しやすい位置にある。また、エレベーターのボタンの位置が低い位置に付いていたり、だれでもトイレ、音声案内やスロープ等も増えている。他にも、テレホンカードや牛乳パックには切り欠きがついていて、他のものと区別が付けられている。アルコール飲料には点字がついているし、シャンプーとリンスについても、容器の凹凸で、それぞれの判断ができるようになっている。このように、ユニバーサルデザインを大げさにとらえるのではなく、普段の生活の中にとけ込んでいるということに気付いてもらいたい。身近なものに気付いてもらいたい。

委員

「企業がどのような取り組みを行っているのか区民に理解されていない」とあるが、取り組んでいる企業をお呼びしてお話を伺ってみてはどうか。

福祉管理課長

区内の企業から調査してわかる範囲で報告させていただきます。

都市基盤管理課長

ビルの中にバリアフリーで出来ているものについては丸適マーク的なものをつけていくということにも取り組んではいる。

副会長

3-2 のバリアフリー点検については 7 月にも実施し、30 名以上の方が参加していただいた。今度は 9 月 16 日に行う。

委員

区内のサインも以前に比べるととてもよくなってきていると感じているが、まだ足りないと感じることもあるので、この取り組みを勢いにのせて、ユニバーサルデザインについての PR としてイベントを行ったり、マップに入れるなど、外から来る人のためにアピールが出来たらいい。

委員

3 年ほど前まで行われていた環境福祉展は来場者数が本当に少なかった。ユニバーサルデザインは興味がないと、人が関心を持って集まりにくいと思った。また、集まりやすい内容というのが大切だと思う。

委員

子育て中の親子が外出しにくいという視点が抜けているというところのがっかりした。車いすが通りにくい道路の整備、というところにベビーカーという記述も入れていただきたいなと思いました。UD 点検でも子育て中の親の方を呼んで行えば、幅広い世代にアピール出来るのではないかと思う。今のままであると障害者とお年寄りのためのものだけにになりかねない気がする。

委員

計画のアウトプットとしてどのようなものイメージしているのだろうかというものを伺いたい。パンフレット程度なのか実効性のあるものなのか。

福祉管理課長

発表の仕方や、計画書の作り方も考えるべきではあるが、皆さんからご意見いただきながら区が出来る実効性の伴う範囲のものを考えたいと思っている。

福祉部長

このユニバーサルデザインの取り組みについては、本日集まっていたいただいているような広範の皆様はどういったご協力がいただけるのかということ、長期にわたってどのように活動できるのかという位置づけ、条例作りだけで終わることなくどのように活動していくべきか、検討すべきことが数多くある部分なので、続けて皆さんのお知恵をお貸し願いたい。

会長

これは行政だけでなく地域で主体的に行うものです。それぞれが取り組む為に何が必要なのか、この視点で方針作りをまとめていきたいと考えています。

委員

2-5に書かれている、障害物撤去は、年に1回程度行われているが、すぐ元に戻ってしまうという現実的な問題がある。このような具体的なことについても取り上げてもらいたいと思う。

委員

行政と区民が協働ですることはもちろんだと思っている。広報の仕方、区報に取り上げてもらうだとか、現在のままであるとメッセージが足りないと思っている。

会長

情報発信は大事なことで、このように検討している過程を聞いてもらうこともとても大事なことだ。今回気付いたのは、身近なものを伝えていく、それを広げていくことが非常に重要だと思う。なお、アクションプランについては各委員の皆さんに読んでいただき、これで十分かどうかについてご意見いただければと思う。

福祉管理課長

本日の内容を考慮し、次回の開催を8/25に行わせていただきたい。詳細は後日近くなったらお知らせするが、どうぞよろしく願いしたい。

5 次回会議の開催について

第7回 平成22年8月25日(水)

午後1時30分から午後3時30分

蒲田地域庁舎 5階大会議室

6 閉会